

西洋道中膝栗毛

九編

下



門 へ 13
1260
18
巻

西洋道中膝栗毛九編下

東京

假名垣魯

文戲著

スエスの北の終る事本をるるをどとどろぐ小家をあり

泥土細石を以て建築去人の黒質はくくも深くと云ん

か長しき道にも廣敷等が泊りたる旅舎の英人

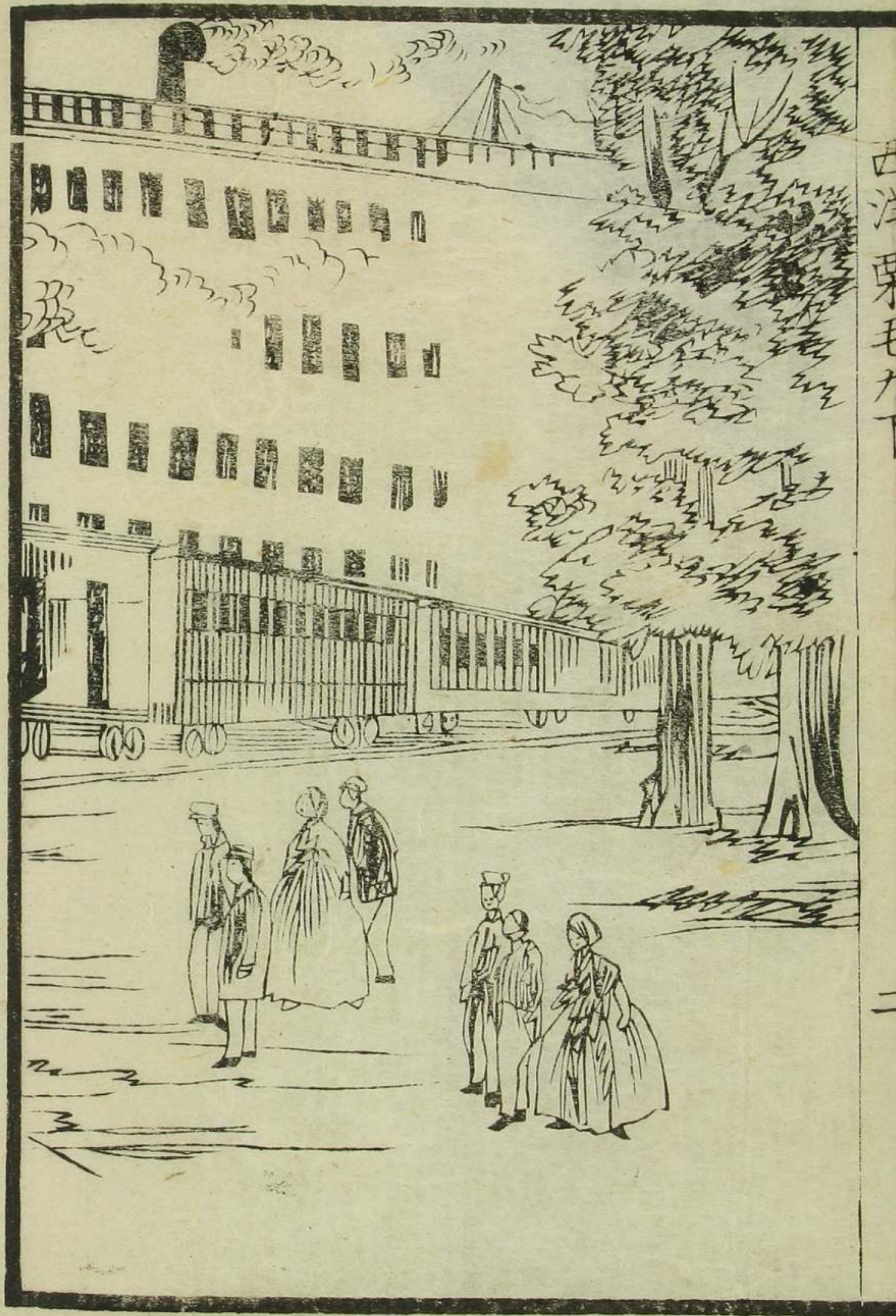
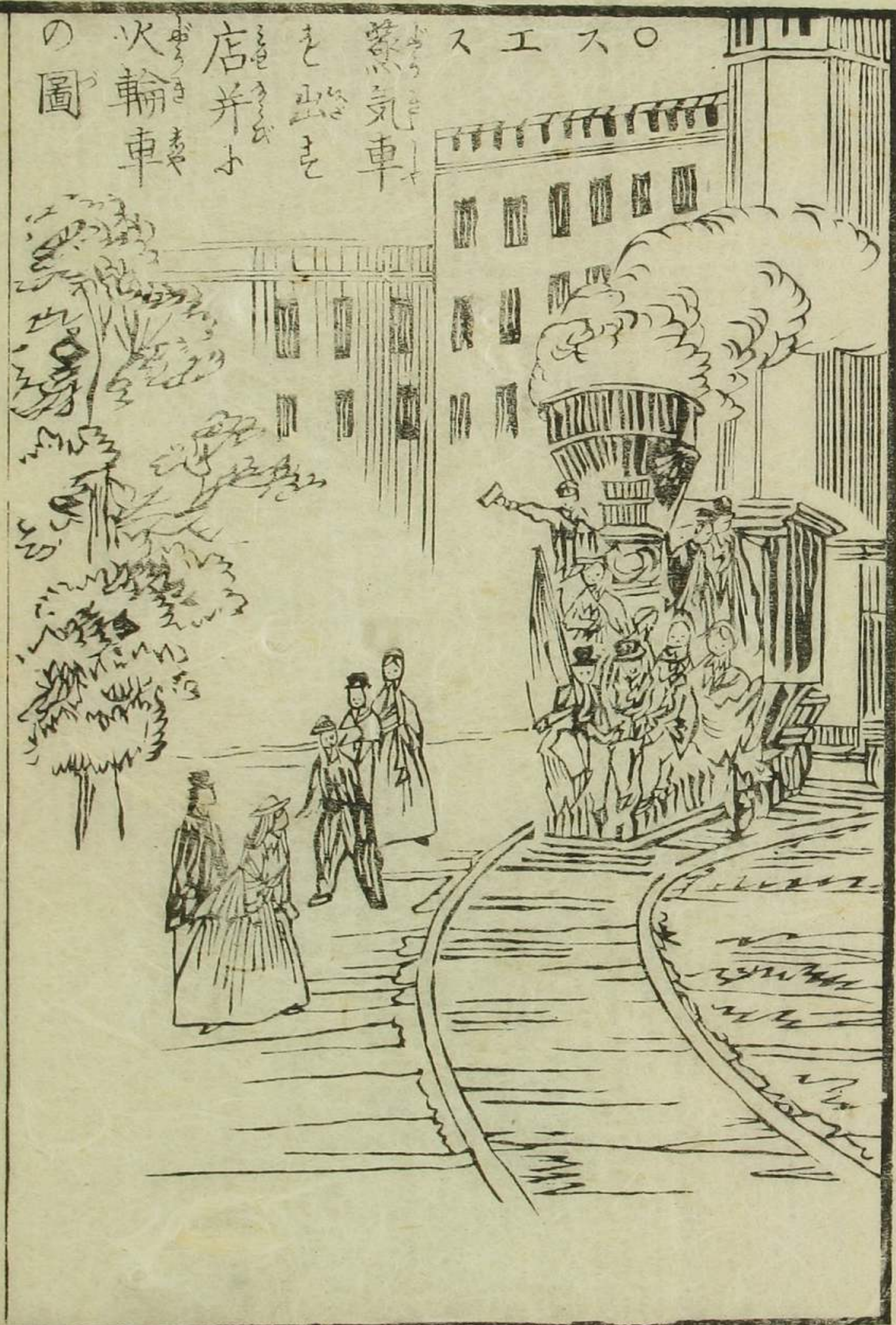
あゝと云者から店小洋酒食物を賜ふる行人

皆多小憩く蒸気車の出行をゆりさても旅の節

水八と通次郎の二名の個々度々主役とゆふとも小

西洋道中九編下

スエス
 蒸気車
 を出さ
 店并小
 火輪車
 の圖



西洋果毛力下

横濱も東京もたむるの女座買ご別と吉原の
 全盛でござるヨと云はれり女座の片ッをーから
 ▲○小成ッてお職くら上等八枚中等九名が跡ら
 ぶ暇がー仲の町張おみッて懐のおづッたがおいん
 の見減のむろーからるると中ッたから遊具つくし
 我輩あやア昼夜七十式おひしゆーゆートらしてよ
 しご況がもあやふ小籠がゆるんごせ
 かしらサ老人がむろーさ修でよーらあつご自ご

仕年と手あやア相撲力士あんごア裾逃が癖が身
 杖八尺谷風が七尺六寸あつろ豆腐屋の二階を
 敵いたの佃優あやア松中幸田郎の鼻柱が夫を柱
 の実がッたの市川恋十郎があらむと眼のたぬら
 ちろげろをほしてのト流石をくまの志申んをりか
 類だぜ通「そまご所渭蕎麦」とも周備ともりのサ
 ろろー遊女場の藝を一洗はるあやア是非慶廓
 倫が建のござるやが丸の蕎麦のねん知ろろろね

西洋書毛九下

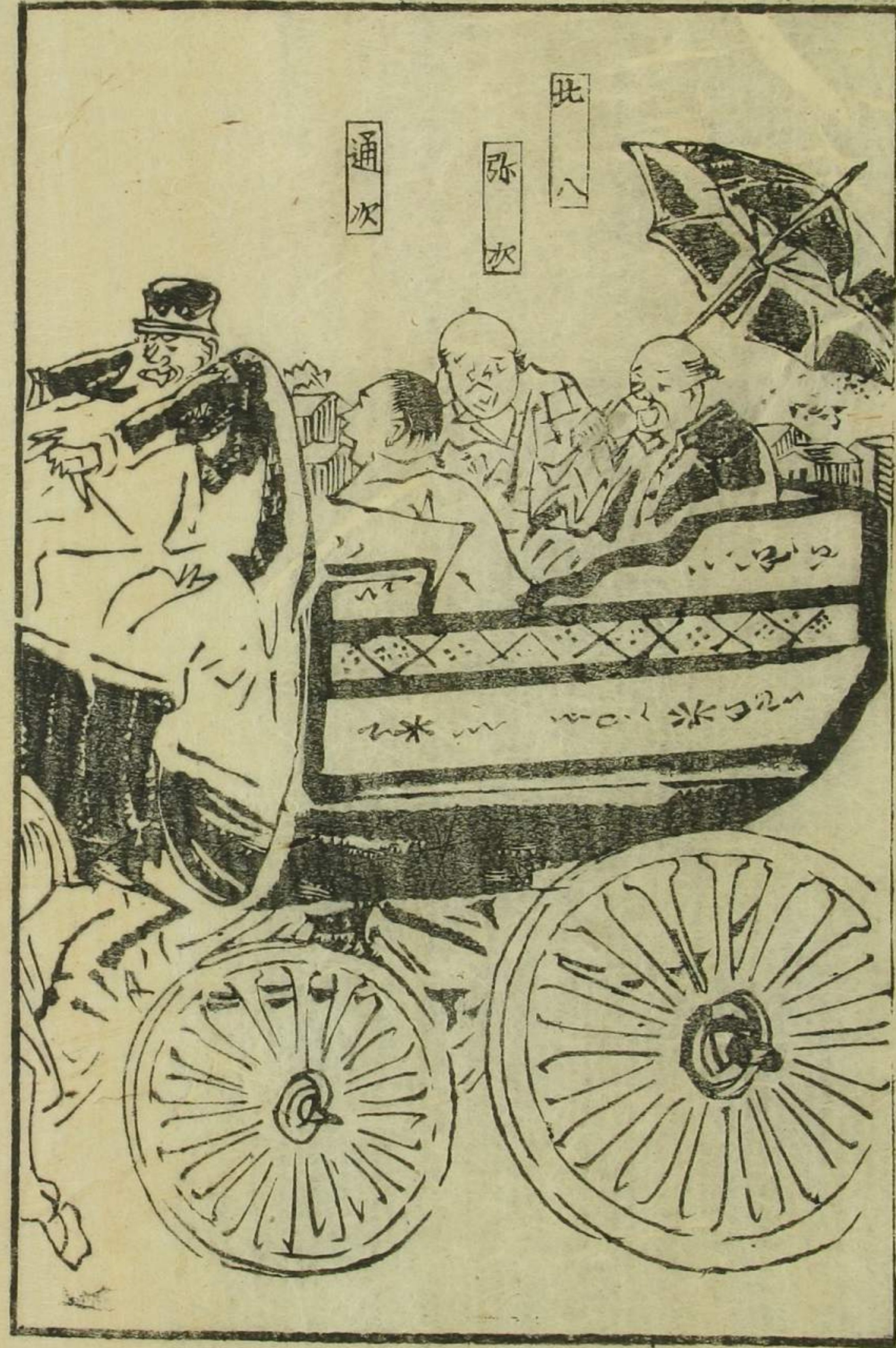
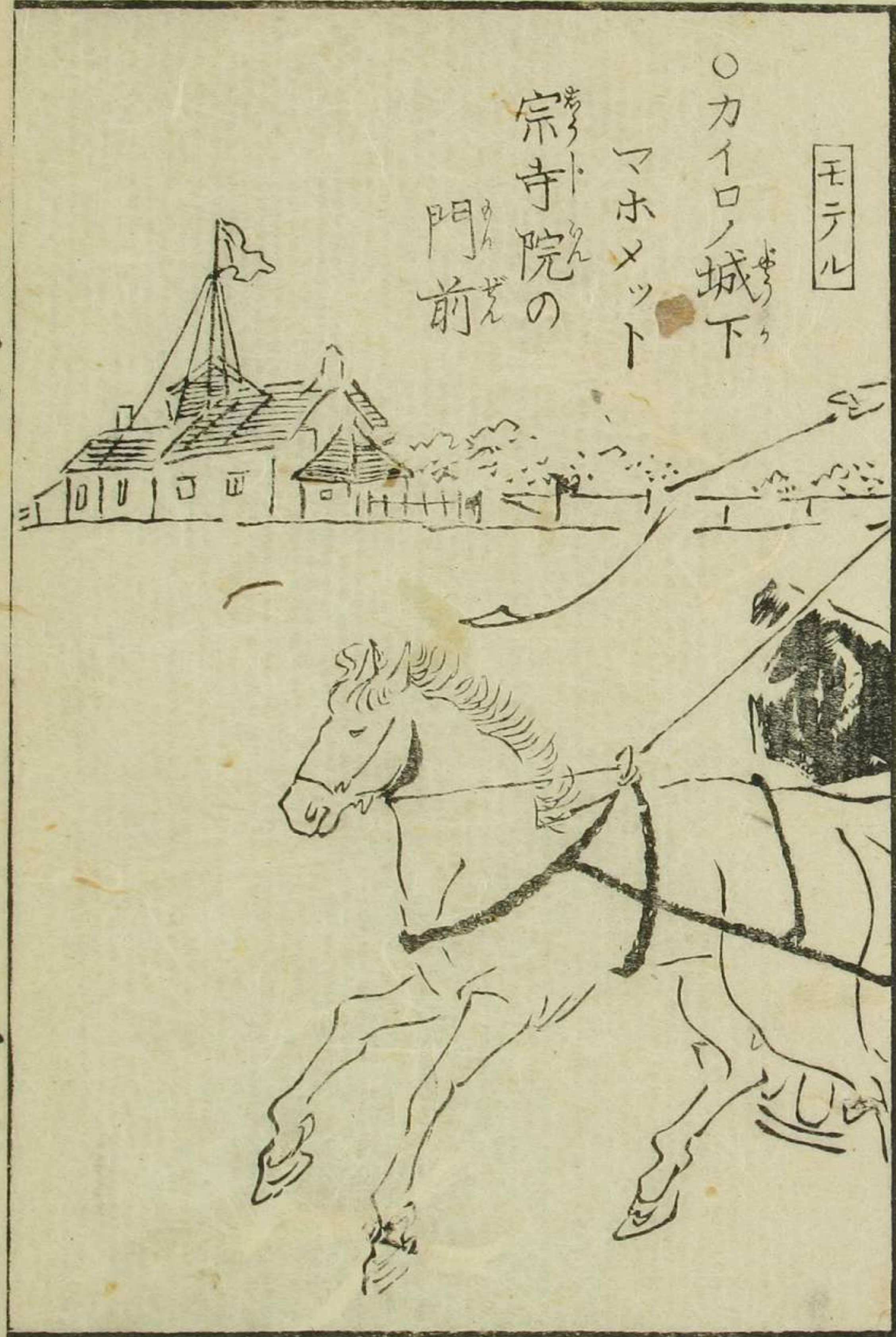
日

楽座の遠入やア飯の茶の一品文久ニッ宛四十八宛浮氣
 との持痛がわさくおる足づついでまのる女廊の年箇
 年中為切菴はしらまが拾子をとりやア氣
 ちをとりて辻おあさうり白雲の住吉浦とたつ二枚の
 座ぬゑを曲たり夜蔭の客をいびく新内ぶの門
 附を名代座へ申のらみかたり廊下で傍茶どじ
 行會
 めだわやア「まろまろ」だヨと「あんまり」ぎぬスと
 子と阿意蘭陀国の通糸あもとらわく

湯をいあぐら座ぬゑのあ合をつけて客のうらま
 史の「のろけ」で淫言の八百をすたじく隣座ぬゑの白
 茶から茶座の湯をそけて湯呑をあをこまじき
 小入らわくごあるとあ新まどくついたり虎を朱ら
 うのきせるでお擲つけたりぎやうさんお知つて糖を散
 したりのらひ泣をて血のたを散せ知を知らわアお
 いらんだが粗礼たる傾城買於客物語の妖怪は是ごと
 えとあをつけるのどごその座座を知つておあぐらねあ

やうふ好む奴があるから廊が建つてゆくのご子通さうサ
 舊幣を棄さざれば海どりやア伽羅やぶやううの白ひ
 で鼻をつまむむ者もあるに巡薪を念て舌鼓をあらせ
 個もあるのが藝會ふ虫の好くサ。ダガノ後朝の大雨を
 假托を居つけ新造の贅もいよとど流連の汐の裏
 よごまのあららるる布巻のくへ身纏をひたつげく
 辛へ齒磨でむふ齒うらをぶめて上り十二枚のうら
 表をのりくとみがねあげく真鍮の漱茶碗をき切の

赤一掃で口と面を洗って志まふら茶屋を呼ぶふ
 裏新がまんドから拾巻と納豆巻をよんぐ夜具
 店のもろふ志ら川夜船を揺る雲中の裾野をひた
 るの起し洗ひぬを拵せく巾巻り
 迎名代履巻をさけてをのる白布一疋を胸裏に移
 しく脚綱結のつひく帆立貝を拾を若くあ入ら
 木の海妻とさうらやア金るや海老長の佳音珍味皆
 猪屋の猪屋よりうぬさのまのまをまきざんざサその



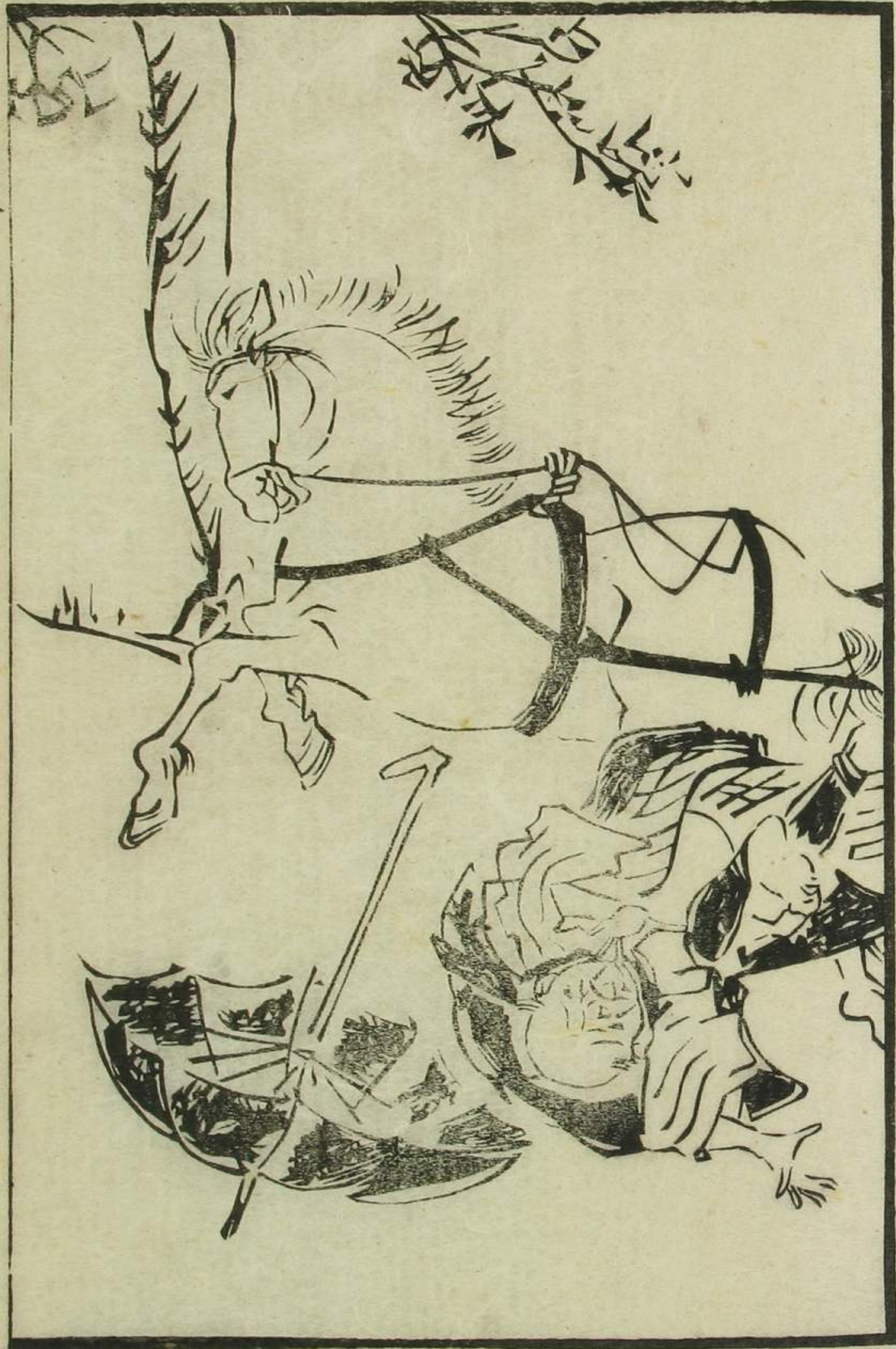
うちさうさうの娼妓達が客を送り出さてバツタキ足
 並てうもんで廊中を通りあぐら後川さん四愉快と
 款小夢をうけらるるから度々と怒る娼妓達を
 呼ぶものさうら丸落のうらむらさ情事のうらむら
 備へ御座らるるさうさうさうさうさうさうさう
 客は小夢をうけらるるさうさうさうさうさうさう
 湯をたうらうさうさうの脊中へさぐさうさうさう
 うさうさう廊中を通る消者茶やの客をあらじく呼

迎んで客をうけらるるさうさうさうさうさうさう
 はの具へさうさうさうのさうさうさうさうさう
 ありたててさうさうをさうさうさうさうさうさう
 客をよんでこれサ御座らるるさうさうさうさう
 親者をさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 呼んでさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 てる折をさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ヨラヤさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう



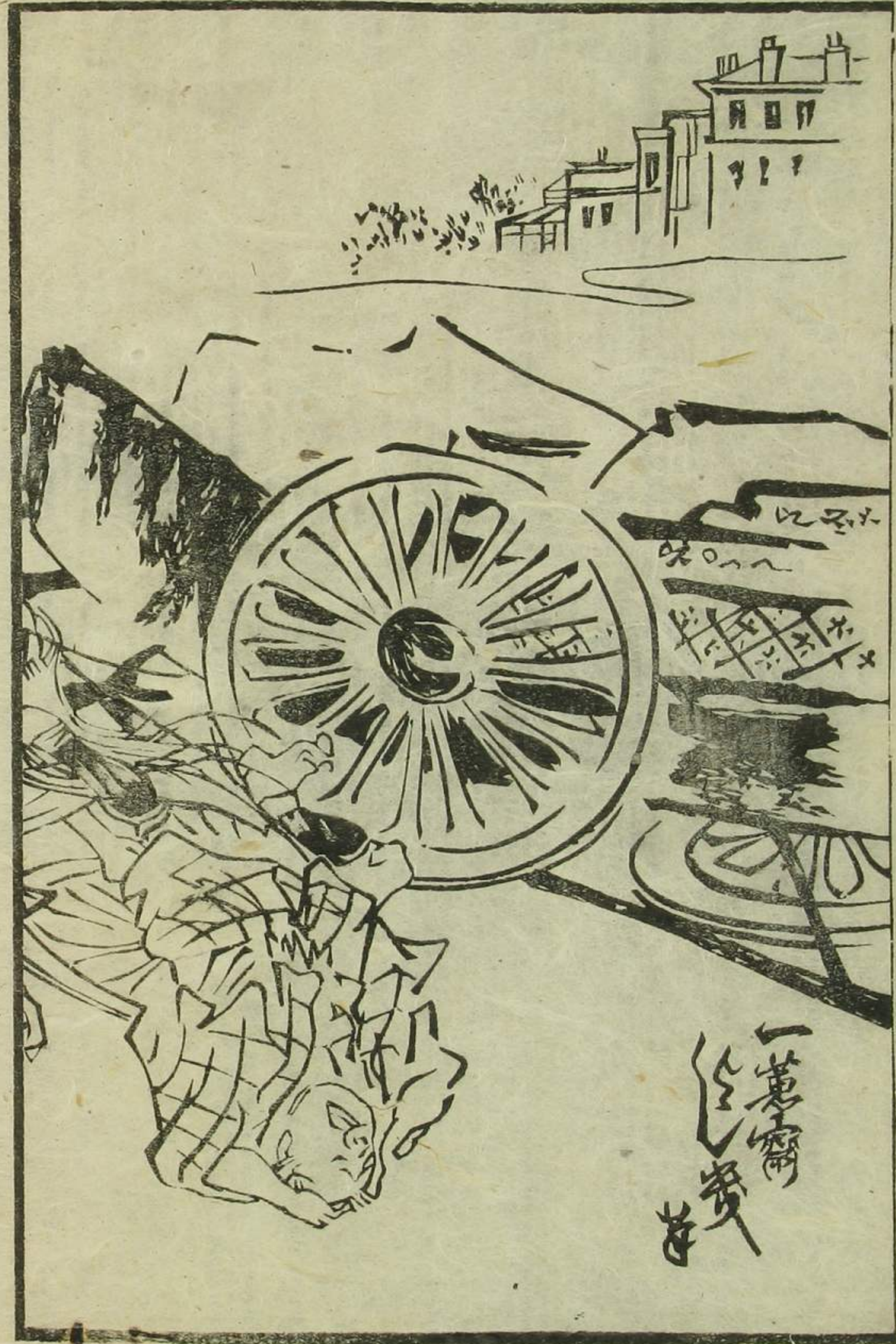
あつりながら後^後たつ後^後入^入志^志やア志^志うご^ご後^後入^入る車^車の破^破
 揺^れく志^志あつるシホテルをたの^のしく城^城下^下からモウ^{モウ}一^一挺^挺る車^車
 をやと^とう^うの^のら^らめ^めと志^志やう^う 孫^孫モ^モシ^シ通^通さん^{さん}からア馬^馬車^車の
 こ^この^のく^くら^らら^らど^どは^はて^てらん^{らん}あ^あせ^せ入^入 北^北サ^サウ^ウく^くあ^あら^らも^もご^ご免^免
 かるむ^むり^りて^て 通^通を^をま^まだ^だと^とけ^け去^去地^地わ^わや^やア^ア志^志義^義い^いし^しサ^サ 孫^孫を^をこ
 が^が朋^朋友^友の^のよ^よし^しを^をあ^あせ^せう^うあ^あぐ^ぐら^らお^お申^申長^長あ^あら^ら桂^桂川^川乃^乃行^行の^の隘^隘
 北^北あ^あつ^つの^のご^ごだ^だあ^あぐ^ぐシ^シヤ^ヤス 通^通一^一志^志あ^ある^るを^を云^云二^二人^人の^の後^後ゆ^ゆけ^けを^を一^一人^人
 で^であ^あら^らわ^わる^る若^若う^うチ^チハ^ハハ^ハモ^モテ^テル^ルさ^さん^んを^を軽^軽が^がら^らシ^シ 通^通モ^モテ^テル^ルハ^ハる^る車^車の^の志^志

申^申の^の後^後に^にて^てひ^ひい^いて^てゆ^ゆり^りあ^あら^らあ^あら^らわ^わ入^入ハ^ハテ^テ固^固ツ^ツる^るま^まら^らダ
 ト^トあ^あら^らわ^わん^んか^かん^んダ^ダラ^ラツ^ツト^ト新^新向^向が^がら^らあ^あん^んご^ご一^一新^新り^りユ^ユ風^風カ^カ 北^北を^を
 り^りわ^わア^アラ^ラユ^ユ風^風ダ^ダど^どう^うら^らお^おた^たの^のま^まや^やス 通^通五^五、[、]年^年の^の傍^傍イ
 ね^ねま^まら^らく^く吹^吹ぬ^ぬレ^レ彼^彼る^る車^車の^のら^らま^まを^を今^今モ^モテ^テル^ルガ^ガク^クサ
 ビ^ビを^をを^をめ^めて^てお^おら^らひ^ひく^くゆ^ゆり^りあ^あら^らあ^あら^らわ^わら^らう^うを^をこ^こら^らを^をる^るハ
 を^をあ^あら^らわ^わシ^シモ^モテ^テル^ルお^おひ^ひく^くせ^せく^くや^やら^らから^らあ^あめ^め入^入ね^ねら^らん^ん後^後ツ^ツた
 車^車お^おあ^あら^らわ^わせ^せ入^入年^年の^のま^まら^らわ^わ入^入後^後あ^あら^らた^たけ^けれ^れど^ど孫^孫の^の細^細
 ハ^ハか^かき^き推^推明^明友^友の^の信^信義^義お^お備^備が^がち^ちよ^よん^んさ^さら^らお^おい^いで^で引^引て^てや^やら^ら



西洋馬大毛九

十一



西洋馬大毛九

十五

一萬齋
送安
年

きつたのままにヨシヨシの
さる者グワラヤガラスヤ

○第十編ハ弥次郎北八馬車より落れる

痛ふたぐねカイロの病院へ入りて英醫の

治療をんふの一話平俞の後ピラミト見

物の滑稽最早ぶつつけ書の草稿出来

致度間引続き出板相替らむ御め

奉願上候

西洋道中膝栗毛九編下



發行

書林

京都三條通柳馬場

大坂心齋橋通南久宝寺町

備後町 安土町

尾張名古屋水町三丁目

東京日本橋通一丁目

一丁目

芝神明前

△

△

△ 横山町三丁目

△ 浅草茅町二丁目

△ 水石町二丁目角

堺 屋仁兵衛

伊丹 屋善兵衛

近江 屋平助

河内 屋忠七

菱 屋藤兵衛

菱 屋平兵衛

須原 屋茂兵衛

山城 屋佐兵衛

須原 屋新兵衛

岡田 屋嘉七

和泉 屋市兵衛

和泉 屋金兵衛

須原 屋伊八

梶 屋喜兵衛

